



新たな年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

地域の先生方には、さぞや穏やかなお正月を迎えられたことと思います。

さて、当院の地域連携室も新病院に創設されてから数えて 14 年目になります。この間、サニープランなどを目標に頑張ってきましたが、最近は紹介率も 26% を越え、逆紹介も増加してまいりました。また紹介された患者さんが紹介元に帰られている割合も 90% を越えている状態です。

今後の当院の目標のひとつに、地域の医療機関との連携をより密度の濃いものとし、スムーズな病診連携を図ることを掲げています。

昨年来、地域の先生方を訪問させていただき、地域連携室への要望などもお伺いしてきました。

その中で、一番はやはり外来待ち時間が長いという苦情です。その解決策の一助となるため、外来運営会議を立ち上げました。アイデアを出し合いながら早期に解消する方法を実施し、いい結果をご報告したいと思っています。

先生方への訪問は、生の声をお伺いする貴重な場ですので、今後も継続的に続けていく予定です。

さて難題でした医師不足の問題ですが、少しずつ解消の道が見えてきました。

昨年度より新しく形成外科を新設し、多くの患者さんに喜ばれ、実績を上げています。

また本年 4 月からは、日本の乳腺外科の権威であります高塚先生にお越しいただくことになりました。乳癌の高度検診・治療センターがより一層充実されると確信しています。

内科におきましては、以前循環器科で活躍されていました、川端（李）先生がカムバックされます。永年、当院に在職されておりましたので顔なじみの患者さんも多く、今後の活躍に期待を寄せています。

さらに以前からお知らせさせていただいておりましたが、5 月から IMRT（強度変調放射線治療）が稼働します。これにより、高度で有効な放射線治療が始められる予定です。

また、泉州広域母子医療センターの婦人科腫瘍部門に、腹腔鏡・癌手術に長けたスタッフが加わります。より一層、婦人科疾患の治療効果が期待できる



院長 長松 正章

と、自負しています。

まだまだ不十分だと思いますが、少しずつ医師の充実を図り、皆様に期待され、満足度の高い医療をご提供できるよう、日々努力していく所存です。

ご承知の通り、地域医療再生計画も当院、市立泉佐野病院、阪南市立病院、泉州救急救命センターとの間で、本年 4 月実施に向けて、救急体制、研修（人材育成）情報交換についての議論を交わしています。

当然ながら、この計画につきましても地域の先生方とも話し合い、計画倒れにならないよう着実に再生の道を歩んでいかなければならないと思っております。

是非とも、先生方のお力をお貸し下さいますよう、重ねてお願い致します。

最後に、市立貝塚病院は今までも、これからも地域の中核病院として、市民の健康を守っていく所存です。今年度は公立病院改革プランの最後の年になります。

職員一同、右肩上りの経営を目指して、ひとりひとりが意識をひとつにして努力してまいります。今後とも、何卒ご支援、ご鞭撻下さいますよう心からお願い申し上げます。





平成22年4月より市立貝塚病院に形成外科が新設されました。現在は、望月祐一（H13年卒・日本形成外科学会専門医）の常勤医師1名と非常勤医師で診療にあたっています。

『形成外科』は皆様にとって、聞き慣れない診療科か

もしれません。簡単に言うと、「生まれつきや、癌などの病気やケガによって生じた、変形や不自由を主に手術によって改善し、患者さまの生活の質（QOL）を高めるお手伝いをする診療科」です。

形成外科で扱う疾患は、体表面を中心として全身のあらゆる部位を治療対象とすることが特徴です。

代表的な疾患は以下の通りです。

- 母斑（ほくろ）・血管腫・脂肪腫などの良性腫瘍
- 悪性腫瘍とその再建（皮膚癌、癌を切除した後の変形や機能欠損の改善、乳房再建など）
- 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド（ケガや手術の後の目立つ傷あとやそれによる運動機能制限）
- 熱傷（やけど、やけどが治った後の傷あと）
- 擦り傷や皮膚欠損創、挫創などの体表面のケガ
- 顔面骨骨折（頬や鼻などの首から上の骨折）
- 手足の外傷・先天奇形（多指症などの生まれつきの異常や、指のケガ）
- 体表面の先天異常（耳の変形、でべそ、など）

その他にも身近な疾患では、放っておくと痛くて歩けなくなってしまうこともある『巻き爪』、視野が狭くなるだけでなく、肩こりや片頭痛の原因である可能性も指摘されている『眼瞼下垂（まぶたの弛み）』、本人にとっては深刻な悩みである『腋臭症（ワキガ）』なども形成外科の専門領域です。また、日常生活でよくある、擦り傷、熱傷（やけど）は、最新の治療法で、痛くなく、早く、跡が目立たないように治します。

再建の分野では、乳癌高度検診・治療センターが併設されており、乳腺外科と連携し、乳房再建に力を入れております。

【平成22年4月～12月の手術件数とその内訳】

良性腫瘍	132件	悪性腫瘍	10件
眼瞼下垂	27件	眼瞼内反	6件
瘢痕・ケロイド	9件	腋臭症	3件
顔面骨骨折	2件	陥入爪	17件
先天異常	3件	乳房再建	9件
		計	218件



当科で扱う疾患の多くは、患者さまのみならず、場合によっては、他人も見ることのできる体の表面にあります。したがって、単に病気やケガを治し、機能を改善させるだけでなく、創傷治療（傷の治る過程）の専門である形成外科の専門技術と、最新の創傷被覆材や細かい糸、専門器具を用いて、いかに目立ちにくい傷あとにするか（Scarless healing）を追求しております。

開設して間もない診療科でありますので、現在のところ常勤医師は1名ですが、当科は近畿大学医学部形成外科学教室と連携しており、乳房再建などの大きな手術の際には、必要に応じて大学から応援医師が派遣されます。大学病院と同レベルの手術が行えるよう日々研鑽を重ねつつ、難治症例に対しては、必要に応じて大学病院等の高次機能病院へ紹介させていただきます。

平成22年4月の開設以降、近隣の先生方からも多くの患者さまをご紹介いただき感謝しております。形成外科疾患は命に関わらないものも多いため、これまで見過ごされてきたり、患者さま自身が病気だということ認識せずに我慢してきた、というものも多くあると思います。少しでも気になる事がございましたら、お気軽にご相談ください。患者さまの生活の質（QOL）の向上の手助けを行い、地域医療に貢献できればと考えております。

生きる

コラム

市立貝塚病院

総長 小川 道雄

＝ バック・トゥ・ザ・... ＝

◇見えない外科医の未来

名古屋市で開かれた外科学会に出席した。参加者1万人以上のマンモス学会である。

今回のテーマは「外科のバック・トゥ・ザ・フューチャー」であった。同名の映画が公開されたときから「バック・トゥ・ザ・フューチャー」という言葉の意味に興味をもち、続編の公開やテレビ放送のたびに、その由来を書いてきた。強いて訳せば、「未来へ後退する」となる。

われわれは前方に未来があり、過去は後方に飛び去っていく、と考えている。だから「未来は背後にある」と言われると不思議な気がする。

故堀田善衛氏によると、「バック・トゥ・ザ・フューチャー」はホメロスのオデッセイ(オデュッセイアー)に由来するという(雑誌「ちくま」285号収載)。

そのころのギリシャでは、過去と現在はわれわれの前方にある、だから理解できる。ところが未来はわれわれの背後にある、そのため見ることはできない、と考えられていた。見えない未来に向かって後退しながら進む、ということだ。

外科医の将来も見えない。近年病院に勤務する外科医の減少が著しい。外科の専門医となるには、まず外科学会の会員になっておく必要がある。この入会者数が年々減り、2015年ないし18年には入会者がゼロになると推測される。新入会員がいなくなる年から、外科医はさらに急速に減少していくことになる。

外科学会は会員の10%を抽出して、なぜ外科医の志望者が少なくなったかを調査した。現状を知る現役外科医が考える志望者減少の理由として、複数回答の上位5位まではほぼ同数だった。

回答者全体の3分の2以上が同じ理由、すなわち

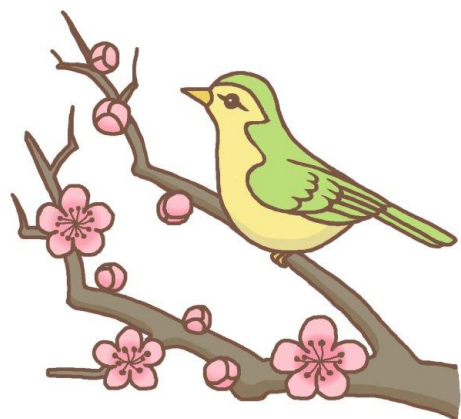
(1)労働時間が長い(2)時間外勤務が多い(3)医療事故のリスクが高い(4)訴訟のリスクが高い(5)報酬が少ない、を挙げている。

外科医をめぐる環境が改善されないなら、今後ますます志望者は減るだろう。その人材不足が外科医の労働環境を悪化させ、さらに志望者を減らす悪循環に陥る可能性が高い。

今回の学会の各会場でも「外科の魅力をいかに伝えるか」をはじめ、教育のシステム化、診療報酬面での外科手術の評価、無過失責任保障制度の導入、他職種による業務の分担、女性外科医が働きやすい職場環境の整備、などの課題が討論され、施策の提言がなされた。

外科は、過去の世界からは想像もつかない、全く見えない未来にこれから向かう。幸い民間のNPO法人「日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会」も発足し、活動している。

医療の最後の砦(とりで)でもある外科を守るために、外科医、外科学会、NPOが手をたずさえて、現状を国民に知らせ、早急に改善をはかる必要があると思う。



開業医紹介コーナーのお知らせ

現在、市内の医療機関を中心に紹介用パンフレットを1階ロビーに展示しています。新たにパンフレットの展示や既にあるパンフレットの内容変更を希望される医療機関は、地域医療連携室(☎ 072-438-5522)までご連絡ください。今後とも病診連携の推進に鋭意努めてまいりますので、ご指導ご協力をお願い致します。

症例カンファレンスのお知らせ

各診療科で症例カンファレンスを定期的に行っています。紹介いただいた患者様やそれ以外の患者様の症例検討など行っております。一度参加してみませんか。

内科	月曜日(毎週)	16:00~17:00
外科	火曜日(毎週)	14:00~15:00
整形外科	水曜日(毎週)	17:00~18:00
小児科	木曜日(毎週)	8:00~ 9:00
産婦人科	火曜日(毎週)	17:00~18:00
泌尿器科	火曜日(毎週)	7:00~ 9:00
	木曜日(毎週)	17:00~18:30
貝塚乳腺フォーラム		
	金曜日(月1回)	18:00~21:00

対象者 医師及び医療従事者
 ※ カンファレンスへの参加・お問合せは、
 地域医療連携室(☎072-438-5522)までご連絡ください。



外来栄養指導のご案内

地域の皆様の食生活をサポートしていくために患者様の希望により地域の先生方からご依頼があれば患者様に個別の外来栄養指導を行います。予約枠は毎週金曜日の3名です。ぜひご利用ください。

予約枠

- 毎週 金曜日 ① 午前9時30分
 ② 午前10時
 ③ 午前10時30分

※予約申込は地域医療連携室までお願いいたします。

「乳がん自己検診法」 出前講座のご案内

乳がんの早期発見の有効な手段の一つに、自己検診法があります。当院では看護部が中心になって自己検診法の「普及キャラバン隊」を結成し、地域に出向く取り組みを行っています。

出前条件	参加人数は原則10人以上
時間帯	火曜日の午後1時~午後4時
出前範囲	貝塚市および近隣市町
費用	無料
申込	地域医療連携室
	電話 072-422-5865
	FAX 072-438-5511

第24回 市立貝塚病院 市民公開講座

テーマ

「形成外科治療のいろいろ」

と き 平成23年3月4日(金)
 午後2時30分~4時
 ところ 市立貝塚病院 7階講義室
 講師 当院形成外科医長 望月 祐一
 参加費 無料(定員80名 要予約)

形成外科は、生まれつきや、癌などの病気やケガによって生じた、変形や不自由な状態を主に手術によって改善し、患者さまの生活の質(QOL)を高めるお手伝いをする診療科です。
 形成外科で扱ういろいろな疾患をわかりやすく講演します。お気軽に参加してください。

地域医療連携室報告(紹介患者数報告)

ご紹介ありがとうございました!
 平成22年11月 489人ご利用いただきました。
 平成22年12月 501人ご利用いただきました。

平成20年度	平均442人
平成21年度	〃 472人
平成22年度	〃 516人(4月~12月)

※左記報告は当院にご紹介いただいた件数です。

ご紹介いただきました患者様の件数などで、お気づきの事がございましたらご指導ください。今後とも地域連携の推進にご協力よろしくお願いいたします。



※お問合せ 地域医療連携室
 ☎ 072-438-5522